

2023 年度初期臨床研修3 病院合同説明会 聖マリアンナ医科大学大学病院 研修プログラムについて

Grow together

人として医師として成長できる場所



聖マリアンナ医科大学 循環器内科/医学教育文化部門
臨床研修センター 副センター長/基本プログラム責任者

黄 世捷



Grow together

人として医師として成長できる場所

2024年度 初期臨床研修プログラム →

先輩研修医からのメッセージ →

[2023年度 新専門医プログラム](#)

許可病床数



955床

一般病床
924床

EICU
(救急集中治療室)
6床

EHCU
(高度治療室)
24床

GICU
(総合集中治療室)
14床

CCU
(冠疾患集中治療室)
10床

SCU
(脳卒中集中治療室)
9床

GHCU
(総合的重症患者治療室)
12床

MFICU
(母体胎児集中治療室)
9床

NICU
(新生児集中治療管理室)
15床

GCU
(新生児回復室)
18床

精神病床
31床

聖マリアンナ医科大学プログラムの特徴

- ①大学病院/特定機能病院としての高い専門性と柔軟性
- ②Primary Careから3次救急まで幅広い研修
- ③80名を超える研修医ひとりひとりの
キャリアプランの実現と包括的なサポート

聖マリアンナ医科大学病院臨床研修 募集人数：合計43名

- ①基本プログラム 38名
- ②小児科重点プログラム 2名
- ③産婦人科重点プログラム 2名

*マッチングでは①～③の同時出願可能

基礎研究医プログラム 1名

*基礎研究医プログラムはマッチングではなく個別試験

基礎研究医プログラム

2022年度から

2年次研修の最終4ヶ月から
最大6ヶ月基礎医学研究研修

- *同期間の当直勤務は免除
- *研修修了目標は他と同じ
- *基礎医学教室に限られる
(臨床系教室での基礎医学研究は不可)
- *大学院進学が望ましい
- *研修修了後4年以内を目処に論文を作成し提出

2024年度基礎研究プログラム
志望可能な大学院基礎医学系専攻分野一覧

連番	専攻分野名
1	生体構造学
2	生体統合制御学
3	疾患プロテオーム・分子病態治療学
4	臨床微生物・感染制御学
5	臨床薬理学
6	病理病態学
7	再生医学・免疫病態医学
8	健康・環境制御医学
9	スポーツ医学
10	難治性疾患病態制御学
11	医療情報処理技術応用研究分野

個別面接による選抜

臨床研修の到達目標、方略及び評価

臨床研修の基本理念

(医師法第一六条の二第一項に規定する臨床研修に関する省令)

臨床研修は、医師が、医師としての人格をかん養し、

将来専門とする分野にかかわらず、

医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、

一般的な診療において頻繁に関わる

負傷又は疾病に適切に対応できるよう、

基本的な診療能力を身に付けることのできる

ものでなければならない。

厚生労働省の定める

「経験すべき症候と疾病・病態」

C. 経験すべき症候（29 症候）

- 外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、妊娠・出産、終末期の症候

※経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態の研修を行ったことの確認は、日常業務において作成する病歴要約に基づくこととし、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン（診断、治療、教育）、考察等を含むこと。

厚生労働省の定める

「経験すべき症候と疾病・病態」

D.経験すべき疾病・病態（26 疾病・病態）

- 外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）

※経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態の研修を行ったことの確認は、日常業務において作成する病歴要約に基づくこととし、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン（診断、治療、教育）、考察等を含むこと。

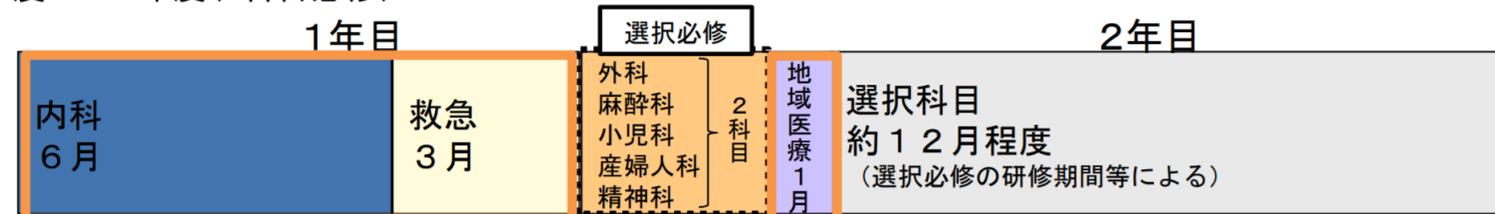
医師臨床研修制度の変遷

必修診療科の見直し(イメージ)

H16年度～H21年度(7科目必修)
1年目



H22年度～H31年度(3科目必修)



R2年度～(7科目必修)

※外科、小児科、産婦人科、精神科、地域医療は8週以上が望ましい



※一般外来 4週以上を含む(8週以上が望ましい)

+ 一般外来研修

研修プログラムの現行ルール

- ①内科: 6ヶ月
 - ②救急: 3ヶ月 【麻酔科への振り替え1ヶ月まで可】
 - ③外科: 1ヶ月 【主に消外・心外・呼外など】
 - ④小児科: 1ヶ月
 - ⑤産婦人科: 1ヶ月
 - ⑥精神科: 1ヶ月
 - ⑦地域医療: 1ヶ月 【原則として2年次】
-

必修科 合計 14ヶ月

⑧一般外来研修: 1ヶ月 【内科・小児科・地域と並行研修可能】

* 救急研修を並行研修も可能

一般的なプログラムと聖マリプログラムの差

①1年次の麻酔科必修2ヶ月（うち1ヶ月は救命研修から振り替え）

厚労省の定める必修7診療科以外に、麻酔科研修を必修とする
救命の3ヶ月のうち1ヶ月を麻酔科に振り替え、合計2ヶ月の必修麻酔科
->気管挿管、呼吸器管理、全身管理といった能力の獲得

②1年次から選択研修可能

1年次 2ヶ月 大学病院内のほぼ全ての診療科（後述）

2年次 最大9ヶ月 1年次選択可能診療科+ α 、および関連施設

* 1年次の選択研修において

同一内科2ヶ月、必修外科、精神科などを選択した場合

2年次の必修研修と振り替え可能

2024年～の選択研修

1年次 選択研修①（大学病院に限る）1科2ヶ月or 2科 各1ヶ月

総合診療内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、脳神経内科、血液内科、腎臓・高血圧内科、代謝・内分泌内科、リウマチ・膠原病・アレルギー内科、腫瘍内科、消化器・一般外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、乳腺・内分泌外科、脳神経外科、腎泌尿器外科、形成外科、眼科、耳鼻咽喉科、神経精神科、小児科、産婦人科、皮膚科、麻酔科、救急科

放射線診断・IVR科、放射線治療科、病理診断科、感染症センター

2年次 選択研修②（大学病院及び一部の協力施設）

1年次選択研修対象診療科に加え、リハビリテーション科、内視鏡センター、緩和ケアセンター
協力型臨床研修病院・協力型臨床研修施設から選択する。

* 赤文字は新プログラムからローテーション可能な診療科・部門

* 同一診療科は2年間で最大4ヶ月まで取得可能

2024年～必修外科追加（予定）

必修外科（1ヶ月必修）とみなされる外科

- ①消化器・一般外科
- ②心臓血管外科
- ③呼吸器外科

2024年度プログラムより下記を追加申請

- ④脳神経外科
- ⑤腎泌尿器外科

一般的なプログラムと聖マリプログラムの差

③当直業務（救命診療体制の変更にあわせ見直し中）

夜間急患 or 救命センターの深夜勤務の場合、勤務明け即帰宅

1年次： ①夜間急or救命センター準夜深夜勤務(18時～8時) 月4回

* 勤務明け即帰宅(有給休暇や夏期休暇には含めない)

②麻酔科・必修外科のみ診療科当直

診療科当直明け勤務に関しては各科裁量

2年次： ①診療科当直月2回平日 当直・月1回休日 日当直

診療科当直明け勤務に関しては各科裁量

* 診療科当直のない科の研修中は夜間急当直に配属

②夜間急患センター準夜勤 18-23時 翌日勤務

③夜間急患センター準夜深夜勤務 18-8時 明け帰宅

一般的なプログラムと聖マリプログラムの差

④外来研修の並行研修による実施

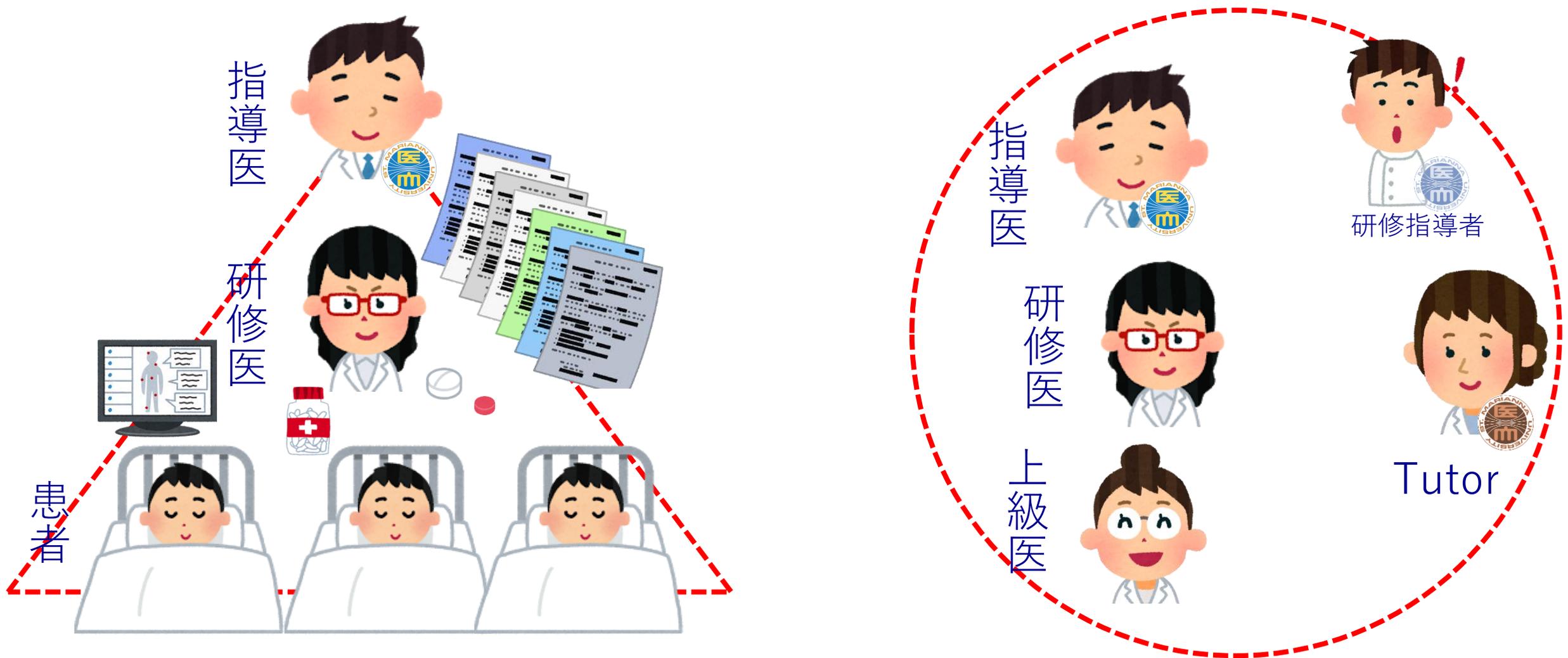
2年間で4週間（半日0.5コマとして、20コマが必修）
必修内科・小児科研修中に並行研修として実施

補足) 1ヶ月間外来のみを行うブロック研修方式ではない
-> 選択研修の期間を減らさず外来研修が可能

⑤各診療科の指導医とTutor/研修指導者の二重サポート

研修の修了要件を満たしているか、適切な指導が為されているか
各担当Tutorが2年間サポート
キャリアプランの変化への対応
メンタルサポート・ハラスメントの防止と早期発見
育休/産休時の研修プランの見直し
医師以外の認定研修医指導者を配置

Tutor/研修指導者による研修医サポート



聖マリプログラムの改善点

①研修プログラムの柔軟化

選択研修対象の拡大、必修外科の対象科拡大
各診療科定員数の見直し
2年次のプログラム変更希望への柔軟な対応

②PG-EPOCの導入による研修記録の簡略化

臨床実習で使用されているCC-EPOCの研修医版である
PG-EPOCを2023年度より導入
マリアンナ研修の伝統であるポートフォリオの一部を併用しつつ
研修到達目標の達成度評価、研修記録を簡便に行えるように配慮

聖マリプログラムの改善点

③研修医が意見を出せる心理的安全性の担保

研修運営委員会および各部会への研修医の参加

研修医からのプログラムや研修環境、方針に対する意見を反映

菅生塾(1回/2ヶ月)において病院長・副院長と直接対話

④働き方改革への取り組み

働き方改革で研修医の「時間外労働時間」の上限は一人当たり1860時間/年

当院の平均は一人当たり235時間/年(2022年実績)

大学病院として研修医はじめ、医師全体の働き方改革を行っている

聖マリアンナ医科大学本院 処遇

身分:聖マリアンナ医科大学病院の常勤職員（研修医）

給与:基本給 200,000円 + 研修医手当 30,000円

宿直手当(平日) 11,000円

宿直手当(土曜日) 17,500円

宿直手当(日曜祭日) 12,500円

日直手当(日曜祭日) 12,500円

月収：約290,000円（宿日直、救急当直等の諸手当込み）

時間外勤務に対する残業代は別途支給（土曜は月2回勤務）

*大学病院以外からの副収入は認めない

（例：親族の医療法人の役員報酬や診療以外のバイトを含む）

Grow together

人として医師として成長できる場所



聖マリアンナ医科大学プログラムの特徴

- ①大学病院/特定機能病院としての高い専門性と柔軟性
川崎北部の中核病院としての症例数とキャリアに応じた研修設計

- ②Primary Careから3次救急まで幅広い研修
夜間急患センターとER研修により幅広く経験
夜間急では研修医が初療から上級医コンサルトまで実践
2022年度6523台/年の救急車受け入れ

- ③研修医ひとりひとりのキャリアプランの実現と包括的なサポート
臨床研修指導医 211名 Tutor 11名 多職種の研究指導者 170名
2023年5月現在

2024年～ 基本プログラム

1年次		2年次	
大学病院		大学病院および 協力型臨床研修病院・協力型臨床研修施設	
必修内科①	16週以上 ^{*1}	必修内科②	8週以上 ^{*1}
必修救急	12週以上 ^{*2}	必修外科	4週以上 ^{*4}
必修麻酔	4週以上 ^{*2}	必修精神科	4週以上
必修小児科	4週以上	必修地域	4週以上
必修産婦人科	4週以上	選択研修②	28週以上 ^{*3}
選択研修①	8週以上 ^{*3}		

*1必修内科①は8週以上の2診療科、必修内科②は8週以上の1診療科としそれぞれ異なる内科とする。

*2必修救急のうち4週は麻酔科の研修とする(麻酔科は必修麻酔とあわせて計8週以上となる)

*3選択研修①は8週以上の1診療科、または4週以上の2診療科(連続した8週間)とする。選択研修②は診療科の受け入れ状況により4週から最大16週とする。ただし、必修・選択にかかわらず、臨床研修期間中に同一診療科の研修は16週を上限とする。(*5参照)

選択研修①で必修内科(同一診療科を2ヶ月)・必修外科・必修精神科・必修産婦人科・必修小児科に該当する診療科を選択した場合、2年次の当該必修研修は選択研修①と振り返ることが可能である。

*4必修外科は心臓血管外科、消化器・一般外科、呼吸器外科、脳神経外科、腎泌尿器外科より選択する。

2024年度～ 小児科重点プログラム

1年次		2年次	
大学病院		大学病院および 協力型臨床研修病院・協力型臨床研修施設	
必修内科①	16週以上 ^{*1}	必修内科②	8週以上 ^{*1}
必修救急	12週以上 ^{*2}	必修外科	4週以上 ^{*4}
必修麻酔	4週以上 ^{*2}	必修精神科	4週以上
必修小児科	8週以上	必修産婦人科	4週以上
選択研修①	8週以上 ^{*3}	必修地域	4週以上
		選択研修②	24週以上 ^{*3}

1年次必修の小児科の期間を4->8週として重点的に研修。
必修産婦人科を2年次に行う。

2024年度～ 産婦人科重点プログラム

1年次		2年次	
大学病院		大学病院および 協力型臨床研修病院・協力型臨床研修施設	
必修内科①	16週以上 ^{*1}	必修内科②	8週以上 ^{*1}
必修救急	12週以上 ^{*2}	必修外科	4週以上 ^{*4}
必修麻酔	4週以上 ^{*2}	必修精神科	4週以上
必修産婦人科①	8週以上	必修産婦人科②	16週以上
選択研修①	8週以上 ^{*3}	必修小児科	4週以上
		必修地域	4週以上
		選択研修②	8週以上 ^{*3}

*5 産婦人科重点プログラムのみ、産婦人科を24週選択可能。

1年次必修産婦人科の期間を4->8週として重点的に研修。

必修小児科を2年次に行う。

2年次に必修産婦人科②を16週行ない、合計24週の産婦人科研修を行う。

2024年度～ 基礎研究医プログラム

1年次		2年次	
大学病院		大学病院および 協力型臨床研修病院・協力型臨床研修施設	
必修内科①	16週以上 ^{*1}	必修内科②	8週以上 ^{*1}
必修救急	12週以上 ^{*2}	必修外科	4週以上 ^{*4}
必修麻酔	4週以上 ^{*2}	必修精神科	4週以上
必修小児科	4週以上	必修地域	4週以上
必修産婦人科	4週以上	選択研修②	12週以上 ^{*3}
選択研修①	8週以上 ^{*3}	基礎研究	16週以上

*6 基礎研究医プログラムでは2年次の9月に研修修了見込みを判定し、研修修了目標達成の見込みと判断した場合、16週から24週の基礎研究を行うことができる。

*同期間の当直勤務は免除される。研修修了目標は他プログラムと同じ。

*基礎医学教室に限られる（臨床系教室での基礎医学研究は不可）

*研修修了後の大学院進学が望ましい（受け入れ教室によって進学を前提に受け例可能な場合もある）

*研修修了後4年以内を目処に論文を作成し提出